

はじめに

人工知能 (AI), ビッグデータ, Internet of Things (IoT), ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 時代が到来しつつあります。今, 私たちは, こうした社会の在り方が劇的に変わる状況に加え, 新型コロナウイルス感染症の拡大を抑え, その収束を見通す取組の渦中に置かれています。また, 教育の世界においても, 「新学習指導要領の全面実施」, 「学校における働き方改革」, 「GIGA スクール構想」等, 従来の日本型学校教育を発展させた新しい時代の学校教育の実現を目指す重要な取組が進展しつつあります。このような時代背景を踏まえながら, 当センターでは, 未来を拓く子供を育むために, 教職員の研修及び教育に関する専門的・技術的事項の調査研究を行い, 教育の振興を図ることを基本方針とし, 学び続ける教職員を支え和歌山の教育を元気にするための事業を進めています。

本誌は, 当センターが実施する各事業がより充実し, 学校現場に寄与できるものとなるよう, 今年度に, 研究及び実践を行った以下の5つの内容を掲載しています。

「オンライン動画研修と集合研修を組み合わせた効率的で効果的な研修の在り方についての一考察」では, 学習指導要領の改訂, 働き方改革など, 教員を取り巻く環境の変化に対応するために, 学校と教育センターが協力して取り組む研究会のこれからの在り方を提案しています。

「自閉症・情緒障害特別支援学級における授業づくり3つのポイントの提案」では, 自閉症・情緒障害特別支援学級における, 異学年の児童生徒に同時に行う教科指導の困難さを解決するためのポイントを自立課題学習の設定, 授業構成表の活用, 学習環境の工夫の3つに整理し, 授業づくり3つのポイントとして, 提案しています。

「自律的な分散型リーダーシップの実現に向けての一考察」では, 本県が求めるミドルリーダーシップ実現のための要件について提案し, 資質向上を目的とした研修経験, コミュニケーションの場の設定, 個業型組織からの脱却に向けたビジョンの共有の3つに整理しました。

「With コロナの状況下において和歌山県教育センター学びの丘がオンライン活用等により実施した初任者研修等プログラムについての検討及び報告」では, 動画視聴による研修やウェブ会議システムを活用した研修等について, 従来の集合型研修との比較や組み合わせの在り方, その研修効果について考察し, 次年度以降の With コロナ, Post コロナ時代の研修に向けた企画・運営モデルについて検討しました。

「理科において求められる探究活動についての検討」では, 育成を目指す資質・能力を育成する観点から, 自然の事物・現象に進んで関わる中での気付きや疑問から課題を設定し, 課題解決のために検証計画を立て, 見通しを持って観察・実験を行い, 結果を分析して解釈するなど, 科学的に探究する活動について報告しています。

以上, これらはいずれも本県の教育現場における今日的教育課題に対応するための研究及び実践であると考えています。本誌の内容が学校教育活動の活性化に役立つことはもちろん, 本県教育の更なる充実につながることを願うとともに, 御高覧の上, 忌憚のない御意見をいただければ幸いです。

令和3年3月

和歌山県教育センター学びの丘

所長 西 嶋 淳